

令和3年9月9日

対面授業ご担当教員 各位

教務部長 山田 佳弘

対面授業実施上の留意事項について

新型コロナウイルス感染症対策のため、対面授業の実施にあたっては、以下の基本的留意事項及び具体的留意事項に基づいて実施してください。

1. 基本的留意事項

- ① 各自でできる感染防止対策（手洗い、咳エチケットの徹底等）を日常生活の場面において、日頃から継続的に実行してください。
- ② 換気の悪い密閉空間、大勢が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場所の3つの条件が重ならなくても、感染リスクが高くなると言われていることから、これら日頃から避ける取組を工夫して実施してください。
- ③ 免疫力を高めるため、日頃から十分な睡眠及び適度な運動、バランスの取れた食事などを心がけてください。

2. 具体的留意事項

- ① **毎朝の検温に努め、発熱や咳などの風邪症状が見られる場合や、同居している家族等に感染が疑われる方がいる場合は、大学への出講を控え、授業を休講**してください。詳しくは、『新型コロナウイルス感染症対策における対面授業の出講基準』を確認してください。
- ② 在校中に体調不良を感じた場合は、建物の出入口に設置している非接触検温機を利用してください。また、非接触検温機でアラームが鳴った場合（37.5℃以上の発熱）は、『新型コロナウイルス感染症対策における対面授業の出講基準』に従って行動してください。
- ③ 学生には、毎朝『検温表』への体温の記入を義務付け、授業開始時に担当教員から求められた場合は、『検温表』を提示するよう指示していますので、必要に応じて提示を求めてください。
- ④ 学生には、担当教員から指示があった場合は、授業開始前までに『新型コロナウイルス感染防止チェック表』へ記入し、授業開始時に担当教員へ提出するよう案内をしていますので、必要に応じて指示をしてください。なお、すべてにチェックがつかない学生に対しては、受講を控えさせ、保健室に相談するよう指示してください。
- ⑤ 学生には、**発熱や咳などの風邪症状が見られる場合や、同居している家族等に感染が疑われる方がいる場合に加えて、ワクチン接種日及び翌日以降も副反応等の症状によ**

り療養を必要とする場合も授業を欠席し、K-SMAPY II の Q&A 機能を利用して担当教員へ連絡するよう指示しています。これらの事由によって学生が授業を欠席した場合は、本人の体調も含め状況に応じて別途課題を課し、提出者は出席扱いとするなどの柔軟な対応をお願いします。(参考資料「新型コロナウイルス感染症対策における対面授業の出席基準(学生用)」「ワクチン接種に伴う授業欠席への配慮について(学生用)」)

- ⑥ 対面授業において健康上の配慮をすべき事情を持つ学生には、(※)の理由がある場合に限り、教育開発推進機構事務課(学修支援センター)が窓口となって、ご担当の先生方へ遠隔での受講等についてご相談を行います。ご相談があった場合は、履修上不利益とならないよう可能な範囲で、ご対応をお願いします。

(※)原則として、糖尿病・心臓疾患・呼吸器疾患(COPD等)等の基礎疾患がある、透析を受けている、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている等の理由により新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高いこと、又は妊婦であること。

- ⑦ 通学に著しい不安のある場合など、対面授業に不安を抱える学生につきましては、K-SMAPY II の Q&A 機能を利用して担当教員へ相談するよう指示しています。学生から遠隔での受講等について相談があった場合には、先生方のご判断で対応をお願いします。(学生には、担当教員が授業のテーマや内容、ご自身の教授方法等から対応の可否を判断すること、教室設備等の理由から遠隔での受講等に対応できないこともあることを説明し、この点を理解した上で担当教員へ相談するよう指示しています。)

なお、教室からオンラインで授業を配信する方法につきましては、別途ご案内の遠隔授業のヘルプデスク(令和3年9月13日~10月30日開設)を利用してください。

また、政府による緊急事態宣言の発令が解除されるなど、新型コロナウイルス感染拡大状況等の社会情勢が落ち着いたと本学が判断した場合には、教務部から対面授業に不安を抱える学生の配慮に関するお願いを取り下げる予定です。

- ⑧ 一般的なマスクでは、不織布マスクが最も高い効果を持ち、次に布マスク、その次にウレタンマスクの順に効果があるとされています。そのため、**大学構内では必ず不織布マスクを着用**してください。ただし、感覚過敏などの健康上の理由や物理的・経済的な理由、授業科目の特性等により、不織布マスクの着用が難しい場合は、布マスクを着用してください。なお、布マスクと比べても飛沫の遮断性能が劣り、感染予防効果が低いとされているウレタンマスクは避けてください。

- ⑨ 個人の必要性に応じてフェイスシールドを追加で着用してください。フェイスシールドの利用を希望される場合は、教員室までお申出ください。

- ⑩ 建物及び教室の出入口に手指用アルコール消毒液を設置していますので、**入退館及び入退室時の手指消毒を必ず行ってください**。なお、**学生には授業中に必ずマスクを着用するよう指示**していますので、マスクを着用していない場合は、國學院大學生協などでの購入を指示してください。

- ⑪ 教室内の空気は、常に教室外から新しい空気を取り入れ教室内で循環させ、その後、教室外へ排出することにより、**概ね 20 分程度ですべて入れ替わる仕組み**になっていますので、空調は切らないでください。また、なるべく体温調節のできる服装で出講

してください。

- ⑫ 上記のとおり換気機能は設けられていますが、加えて**授業中は適宜、教室の窓や扉を開放して換気を行い、密閉空間になることを避ける**よう心がけてください。また、天候等により、窓や扉を常時開放することが困難な場合でも、その場での教員の判断に基づき定期的に換気がなされるよう、ご注意ください。
- ⑬ 学生が近距離（1m以内）で向き合うようなアクティブ・ラーニングは控えていただき、やむを得ず実施しなければならない場合は、席を互い違いにするなど、正対しないように配慮してください。また、飛沫拡散防止の観点から大声によるディスカッションとならないようにご指導ください。
- ⑭ 教室は、収容定員の半分以下となるように配当しています。また、学生間の距離を確保できるように学生が着席できる席を指定していますので、着席不可の指示が貼られた席には学生を座らせないでください。
- ⑮ 授業中の教員と学生間の距離を最低1メートル（できるだけ2メートル）は確保してください。

3. その他

- ① ハイブリッド授業については、遠隔方式で参加する受講生の出席管理を行うことができません。出席管理が必要な場合は、K-SMAPY II のアンケート作成機能を使用して小テストやコメントペーパーなどで回答させる方法か、K-SMAPY II の課題管理機能を使用して期限を定めてレポートを提出させる方法などで対応をお願いします。（詳細は『遠隔授業実施マニュアル（97頁）』をご参照ください。）
- ② 授業を行う教室は、定期的に消毒を行っています。